

# 清風会報

No. 70

## 巻頭言

### 退職後十五年をふり返って

清風会会長 木村英

この度、清風会の会長を引き受けることになりました。

退職して十五年、後期高齢者に入ったところで会長職に不安がありました。小鹿野地区の会員有志の方々から要請され、了承した次第です。

昨今の学校の様子を報道等で聞くと三十五人学級、タブレット端末一人一台支給、小学校高学年の教科担任制の実施など学校は、様々に変革しています。スマホも十分に使いこなせない自分から見ると、先生方の大変さが推測されます。また、黒板と紙、鉛筆

の良さは何なのかも考えたいと思います。

さて、私の退職後の十五年をふり返ってみますと、丁度市町村の行財政改革の真つ只中で、殆どの人が声をかけられることなく、退職と同時に年金生活となりました。その年金も六十三才から満額支給ということでした。

自由な時間が手に入ることになり、やりたい事をやって悔いのない人生にしようと考えました。まず、中学生の頃から夢でした海外への旅行です。外国へ行くなど夢のまた夢という時代、「兼高かほるの世界の旅」

は、羨望的でした。その夢を追い、イタリヤ、カナダ、ハワイ、バリ島、オーストラリアへと女房と行きました。

世界は広いな！という感慨を持ちました。教科書の世界史・地理を実感した次第です。

また、宮沢賢治、小鹿野町来訪百周年（平成二十八年）という記念行事に

関わらせていただきました。明治五年九月四日に小鹿野の寿旅館に宿泊されました。それを記念して講演会とイベントを町

が実施するのを手伝いました。委員長に推され、講演を賢治の弟の子孫になる宮沢和樹氏に依頼することになり、花巻の宮

沢宅を訪問しました。校長時代に「雨二モマケズ」を暗唱させたことがあり、感動の訪問となりました。

普通は、来宅を全てお断りしているとのこと

したが、仏壇やお墓をお参りさせたいいただきました。

またその折、銀河鉄道の夜の構想を得た北上川や、賢治が農民を指導した家、賢治記念館にも立ち寄り、感動を深くしました。三田川の古鷹神社の境内に賢治の短歌碑を建てましたが、それにも

関わらせていただきました。昨年、小鹿野小の学校評議員になったのを機に、毎朝横断歩道で登校指導をしています。

子ども達と朝の挨拶を交わすだけでも、一日の元気を貰えることに気がきました。それだけでも有難いと思いつけています。

会員の皆様もコロナ禍で、いろいろ制約の多い生活だと思えますが、楽しく元気に過ごされますよう祈念しております。

## 会員の動向

### 祝叙勲

瑞寶雙光章  
坂本恒義  
分須好夫

### 祝米寿

坂本恒義  
分須好夫

### 祝傘寿

坂本好司  
児玉修司  
藤原治次

### 祝喜寿

坂本友吉

### 新入会員

吉田和敬  
熊野勤  
石原明  
東原敬治

### ご逝去

北堀栄作  
伊藤暢勇  
二ノ宮完二  
伊古田孝志  
堀口辨司

# 受章 おめでとうございませす

## 叙勲によせて

### 叙勲に寄せて 久保 忠太郎

令和二年度秋の叙勲に際しまして、はからずも瑞寶雙光章の榮に浴しました。身に余る受章は様々な場面で、多くの皆様に多大なご指導とご支援・ご協力をいただいた賜物と深く感謝を申し上げます。

コロナ禍の真つ只中、諸処自粛という流れの中で勲記・勲章の伝達式、皇居参内は取りやめとなりました。勲記・勲章は後日謹んで有り難く拝受いたしました。私ごとで任期満了前に辞職した身であります、省みますと学校現場で教員・管理職として日々の

実践、行政においての社会教育・学校教育・学校管理等、地域と連携を図りながら取り組んできたつもりです。その取組みの中では、様々な場面や役職上でいろいろなことがありましたが、その都度、皆様に支えていただきました。

特に心に残ることとしては授業改善、部活動、生徒指導、統合・閉校、校舎等建設、文化財、給食関係、教職員に関わること、危機管理、社会教育の振興等が浮かびます。価値基準などは、今では当たり前なことも、奉職当時はどう対処したらよいか分からず悩みの連続でした。時の流れの中で社会も大きく変化し、価値観等

も大きく変わりました。

その上にさらにコロナ禍という新たな問題が重なりました。コロナ禍の一日も早い終息を願いながら、コロナ禍後を皆様とともに前を向いて歩んでいきたいと思えます。今後とも変わらぬご厚情をよろしくお願い申し上げます。

本来なら家族と共に一緒に喜んでくれたであろう、何かと苦勞をかけた妻に深く感謝をしております。



### 叙勲に寄せて

#### 坂本 恒義

この度の叙勲に際しまして、はからずも瑞寶雙光章受章の榮に浴し、身に余る光榮に感激致しております。

四十年近く教職に携わり、出会った多くの先生方、児童生徒、保護者、地域の皆様方のお陰と、心より感謝申し上げます。教師としての第一歩は、

母校である両神小学校、その後、秩父地域の小学校に数校勤務しました。長期研修では、埼玉大学にて地理学を研究しました。当時としては日本一となるポットホールが長瀬にあることを教授と発見し本にまとめ、長年自宅へも行き来させていた。たく仲となりました。小川少年自然の家では、普段学校や家庭では経験できない自然体験から生

まれた学びの芽が、子ども達の将来に活かされることを願いました。これは、小学校教育の現場と違う世界を垣間見る良い経験となりました。

続いて、単身赴任で東京都に隣接した戸田市立新曾小学校に教頭として着任しました。地理も人も何もわからない状態から五年間、必死に過ごした日々が今では懐かしく感じられます。

その後は、再び秩父に戻り、太田部小学校や鉢形小学校等、自宅から通える学校への勤務となりました。平成六年三月、国神小学校を最後に定年退職しました。

退職後は、長期研修で学んだことを活かして、長瀬町教育委員会にて町史の編纂に携わりました。少しでも地元への恩返しができたらと務めさせて頂きました。

今までに様々な人と出

### 叙勲に寄せて 分須 好夫

この度、五月一日発表の叙勲により瑞寶雙光章の榮に浴し、私にとつて身に余る光榮なことと思っております。

顧みれば多くの方々に長い間お世話になりご指導いただき、お陰様で今回の榮譽を賜わったものと感謝申し上げます。

また、退職校長会秩父支部並びに秩父地区元現校長会からは、米寿の御祝いをいただき厚く御礼を申し上げます。

私が教員職員として勤務したのは三十四年間で、高校を卒業して荒物商の本店の丁稚となり

ました。年季が明け自宅に帰りましたが、店の後継を考え直し、東京に出てアルバイトをしながら大学で学びました。卒業時は大変な就職難にぶつかり、結局は自宅に戻る破目になりました。

暫くして、ひよんなこととで産休代員の話を頂きました。とにかく一度やってみました。その後数校臨採で頼まれました。その中で槻川小の産休代員で一年生を担当したことがありました。三か月間に一回だけ弁当を持参させる日が出来ました。その食事中、子ども達にこやかに顔を見合わせ、崇高と思えるほどの表情でした。「七つ迄は神のうち」という言葉通りの姿に感動いたしました。

この時を切っ掛けに教員になることを決意し、自分なりに努力を重ねて、やっと本採用になることが出来ました。

三十四年間のうち、直接子どもに関わったのは二十年間でした。小学生に五年間、中学生には十五年間でした。私にとつては、この頃がやり甲斐のあった、よい思い出となっております。



末筆になりましたが、

会員皆様方の益々のご健勝をお祈りし、お礼のご挨拶と致します。

### 秩父支部 理事分担

顧問 同 (前支部長)	山口喜一郎
会長 (支部長)	高橋幸太郎
副会長 (副支部長)	木村 英一
副会長 (副支部長)	坂本 誠
幹事 (庶務)	新井 英信
幹事 (会計)	黒田 富衛
監事	江田 光男
監事	猪野 光
○広報委員会	砂永 雅代
○旅行委員会	坂本 誠
	千島 力夫
	守屋 敏夫
	新井 孝彦
	宮原由紀夫
	林 白石 磨
	新井 英信
	大島 敏夫
	長谷河初男
	三橋 照重
	岩寄 憲一
○班代表理事	大島 敏夫
・秩父市班	千島 力夫
・秩父班	守屋 敏夫
・小鹿野班	長谷河初男
・皆野班	木村 英一 (支部長)
○県理事 ( ) は専門部	堀口 芳嗣 (研) 三橋
	池田 久男 (広) 江田
	黒田 富衛
	恒夫 (福)
	光男 (会)

# おめでとうございませす 喜寿によせて

## 家庭菜園のこと

岡村 寛

過日は喜寿の御祝いを頂き誠にありがとうございます。いましました。

今までに何度かちよつとした病気にかかり入院したこともありましたが、あまり丈夫だと思つていなかった自分が喜寿を迎えることができると思つてもいけません。

時には散歩をしたり、また、時には狭い畑で日光に当たるのもよいのではないかと思ひます。小鳥のさえずりを聞きながらの家庭菜園での仕事は楽しいものです。

春になると気温の上昇と共に雑草はよく伸びますが、雑草が伸びるよう

でなくては作物も育ちません。作物が負けないよう雑草を取り除いてやることは作物のために大切な作業です。

雑草と言えども作物以上にしつかり根を張り、なかなか抜けないものもあります。三寒四温の時間を過ぎ夏が近づくとつれ、こんなにも遠くまで根を張っているのかと驚かされることもあります。

また、五風十雨と言われるように、晴れの日と雨の日がうまく畑を潤すとも限りません。大きな畑ではうまく手をかけられませんが、家庭菜園では心配ありません。

しかし手をかけすぎると心配です。時には放っておいて、作物が自由に成長できるようにするこ

とも大切です。夏の強い日照りに耐えてこそ作物はよく実ることができま

す。作物には土壌が良い事はもちろんのこと、日照時間と降雨のバランスが良いことも大切です。

作物は正直です。手をかけるところにしつかり手をかけてやることの大切さを教えられる毎日です。

## 喜寿を迎えて

野口 清

この度は、私の喜寿のお祝いに際しまして、ご丁寧なお祝いを賜り、心よりお礼申し上げます。

お陰様をもちまして無事に健康で喜寿を迎えることができましたのも、皆様のお心遣いのお陰と感謝致しております。ありがとうございました。

退職後、私は長瀬町にあまり関わってこなか

た事から、何かお手伝いのできることはないか考えていました。

青少年健全育成長瀬町民会議の事業の中で「あいさつ声かけ運動」の実施を知り参加致しました。

【あいさつができる子にそだてる、だれに会ってもあいさつができます】をめあてに取り組んでいる事業です。

私は朝、七時二十分から約五十分間、毎朝県道に立つて長瀬第一小学校の通学班の七班四十五人の登校を見守っています。

見守りしている横断歩道の箇所はカーブしていて、見通しが悪く、朝の通勤時間帯で車もスピードを出しています。子供達も注意して横断していますが危険の多い横断歩道です。安全に横断を見守り、朝の挨拶を続けています。

はじめは、私が挨拶をしても子供達からはな

なか返事が返ってきません。どうしたら大きな声で挨拶が出来るようになるか考えて、私から先に大きな声で挨拶を続けていたら、子供達からもだんだんと返事が返ってくるようになりました。

今では「おはようございます」と明るく、大きな声であいさつをすると、子供達も「おはようございます」と元気に丁寧なあいさつが返ってきます。気持ちの良い一日の始まりにうれしくなります。

これからも、健康の続く限り子供達に元気を貰いながら、横断の見守りとあいさつを続けていきたいと思つています。



## 一本の鉛筆

千島 進

母が、九十八年の生涯を終えてから丁度十年が経った。短歌を詠むのが趣味だった。広告の裏紙などに鉛筆で走り書きしたおびただしい数の短歌や日記を遺していた。目を落とすと、戦争に翻弄された家族の苦悩と悲しみが垣間見えてきた。

「埼玉村 開拓団幹部の妻となり 夫と共に本部に寄宿す」

父と母は新婚生活を異国の地でスタートさせた。姉は昭和十五年七月、私は十九年三月に満州国で生を享けた。異郷ではあったが、家族四人は平穩で希望のある生活を送っていたという。

しかし、戦況は急変し、父は内地へ転属。母子三人の心細い毎日となった。一刻も早く内地に帰れと

の度重なる父からの電報昭和二十年六月だった。

「遙かなる 祖国に向かいて 朝な夕な 出港を待ちつつ 釜山港に立つ」

「薄暗き 船室は混み 救命具 着ければ暑さ 蒸し風呂のごと」

「辿り着く 祖国は戦火 子らの手を 引いて 空襲下 故郷に向かう」

大混乱の戦時下、母子三人を乗せた関釜連絡船「興安丸」は下関港に辿り着く。列車で東京を経由し母の実家児玉へ向かう。心労が重なり母は大病を発症し緊急入院。父は内地転属のままである。

「母は病み 父は征きしまま 幼子は 祖父祖母に抱かれ 終戦を迎ふ」

事の重大さもわからず無邪気に遊び回る幼子の姿が目につく。胸が痛む。

コロナ禍の今、七十六年前の幼子に思いを馳せ、喜寿を迎えることができ

た喜びを噛みしめている。

美空ひばりが一本の鉛筆という歌の中で「一本の鉛筆があれば、戦争は嫌だと私は書く」と唄った。私もためらわず書く

「戦争は大嫌いだ」と。

## 某月某日

逸見 彰 臣

某月某日

Y社のトレールバイク講習受講のため、朝霧高原イーハトーブの森へ。

参加者には遠く九州からフェリーで来た人も。最年少は名古屋の小学三年生で私は最年長と知る。

溶岩台地の樹木を縫って様々なポイント(P)が設定されている。急斜面を上り、狭い岩棚でターンして戻るP。直径30×50cmの丸太数十本の山を乗り越えるP。崖際の高い砂山の斜面横断走行P。その他諸々P。教官曰く『ゆつくり走

行、正確停止』が走りの基本。ということの後、BBQ大会、記念撮影で解散となった。

小学生でも1メートル以上の高さの岩を難なくクリアするのを見て、トレールには年齢関係無きことを改めて思う。

某月某日 H社主催のエンデュロ大会見学に北軽井沢の特設コースへ向かう。

コースは沢と尾根がコンバインされた変化に富んだもの。そこを規定時間内に何周回れたかを競う耐久レース大会である。

沢はブッシュで覆われ、暗く、溶岩流が形成した岩と小滝の連続だ。滝の上で直角に曲がる難所を俯瞰する場所に陣取る。スタックするバイクも多い。その後、尾根に移動。痩せて曲折は多いが此方は明るい樹林帯の中だ。3時間後、泥まみれの

終了者がシャワーを浴びるのを横目に帰路についた。

ハードなレースに触れ、己の気力体力の衰えに思いを致す一日となる。

『趣味』とはそれに関わり無い人にとっては、書架最上段で埃を被る本と大差ないものだろうが、私にとってのトレールとは、嘗ての移動手段から、今やそれ自体が楽しむ対象となってきた。

## 喜寿を迎えて

坂本 友吉

現役を退き、早くも喜寿を迎えて、既に残務整理はもとより、町会の会計役の他、弘済会の幹事や、清風会の理事等の責務を果たし終えている。

一方、浅く広くと思いつながら取り組んだ、大輪菊作りこそ資料を残したが、初めて苦心して描いた油絵を額に入れて、自

己満足をしたものの、知人の画伯に学ぶ妻からの不評を受けて断念。

更に、健康の為に始めたゴルフは、奥の深さを感じつつ、マニュアルやスコアの記録を残しながら、意欲的に取り組んでいたものの、視力の低下による白内障の手術を受けた事を機に断念。

こうした中で、奉職した十二校の内の三校が廃校となってしまった事は残念な限りであるが、着任当初での教員生活を振り返る時、ガリ版と鉄筆を使った手作りの印刷やタイピストによる文書作りが、懐かしく思い出されて来ると言える。

時を経て、効率的な輪転機やコピー器の他、ワープロやパソコンへと新しい機器が導入された事から、難意であったが一太郎・ワード・エクセル・筆ぐるめ・パワーポイント等のソフトに触れ活用

しながら、フロッピーに変わるCDやUSBによるデータ等の確実な保存や、自宅でのプリンターによる印刷が出来た時は、喜びであった。

今日に至って、デジタルカメラやスマートフォンや、タブレット等が、日常的に活用される便利な時代を迎えて、多くの情報の収集や発信が出来るようになった事から、辞書に変わる難語句の検索や、写真のアルバム作り等を楽しんで継続している。また、山間地域に佇む妻の実家に向き、周辺の山林や山道・畑等の整備作業に取り組んでいる。



# ようこそ清風会へ 新人会員の声

時間がゆっくりと

吉田 和敬

令和三年三月に退職を迎え、退職校長会に入会させていただきました。

現在は、秩父市教育相談室で、週二回ほど勤めさせていただいています。

四月からは、肩の荷が下りた生活になりました。大きな責任から開放され心身共にほっとしています。勤務の日以外は、できるだけ家事をこなしています。まだ妻はフルタイムで働いていますので夕食は作るようにしています。カレー、焼きそば

オムライスなど基本的なものしか作れませんが、だんだんとレパートリーを増やしています。

孫の世話のサポートもしています。育休を取っている娘の家にパンを買って行ったりもしています。孫の顔を見るためでもあります。

それが、退職を機に豊を二十年ぶりに張り替えました。今までの豊は横になると服に古い草がたたくさん付いてしまうような状態でしたが、い草の香りがするようになりました。障子も張り替えました。タンスなどの家具もいくつか処分しました。

今、特に感じることはやっと人間らしい生活ができるようになったという事です。時間もゆっくりと流れるようになりました。これから退職校長会の

皆様のお仲間に加えていただきながら、第二の人生を頑張っていきたいと思えます。いろいろとお世話になることと思いますが、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

教師としての  
新たなスタート

東 敬治

三月に定年退職して、四月から再任用教員として新たなスタートを切りました。特別支援学級の学級担任、二年生の副担任、そして剣道部の顧問として、毎日忙しいが充実した日々を送っています。特に楽しいのは、英語の授業や部活動です。二年生の英語を主に担当していて、三十九人学級なのでとても活気があります。私の言うくだらないダジャレや、よくすべるギャグにも素早く反応してくれます。  
荒川中学校の生徒は、

とても純粹で、心の通う生徒ばかりです。毎日一緒に生活していて、実心地よさを感じています。二年生は七月に、大滝げんきプラザでの林間学校を予定しています。生徒同様にとっても楽しみにしています。林間学校に向けて、五月から様々な準備をしてきました。キャンプファイヤーで踊るジンギスカン・マイムマイム・オクラホマの練習では、生徒と共に汗を流してきました。

剣道部の指導でも、また別格の楽しさがありました。今年度は一年生の女子が八人も入部しました。そして八人全員が剣道の経験がありません。毎日放課後になると必ず道場に行き、汗だくになります。剣道を教えています。お陰さまで、先日行なわれた学総体の予選では、剣道素人の八人が全員試合に出場しました。そし

## 新たな出発を

熊野 勤

長い教員生活の最後を、コロナ禍の激動と共に無我夢中で過ごす中で慌ただしく定年退職を迎え、四月からこれまでとは全く異なる生活を送っています。

毎日が仕事と時間に追われていたので、しばらくゆっくり過ごしたい、時々母の介護もしながら一番は趣味に没頭したいと簡単に考えていました。が、依然として終息の見えないコロナ禍の毎日と長期に渡る緊急事態宣言に縛られ、六月になっても旅行に出かけるどころか感染を心配しながらスパー等に出かける程度の

ステイホームの毎日がつつと続いています。

趣味の音楽もバンドでの活動が一年以上も再開できないまま、やむを得ずMTRを購入して自宅録音を始めるなど一人で活動中です。一日も早く以前と同様に安心してライブが楽しめる日常の回復を心から願っています。

このようにコロナ禍では、ただ家に居ても充実感が得られないため、定年後の自分に改めて今出来る仕事があるかを考えた結果が「授業者としてもう一度子供たちの前に立つ」という事でした。管理職を経験した上で授業づくりに本気で取り組めば、教諭時代よりもよい授業ができるのではないかと考えての挑戦です。

杯頑張ってみようと思えます。

## 日々是好日

石原 明

退職を迎えて、教員生活三十七年をふり返ってみると、様々なことが思い出されます。教え子達、多くの先輩や同僚、後輩達から学び、実践してきたこと、どれをとっても大切な思い出となっています。

最後の一年はこのコロナ禍にあつて、学校が学校であるために、いろいろなことを工夫して実施してきました。いつまでこのコロナとの闘いは続くのでしょうか。早く終結すること、願わずにはいられません。

出勤し、早めに退勤します。ようやくこのリズムに慣れてきました。

早起きは相変わらずでコーヒーを入れることから始めます。そして、メールチェック、天気予報の確認、新聞をくまなく読む、・・・そして、畑の見回りと、これらは、朝食前のルーティーンです。今までにない時間を大切に過ごしています。

また、近所を歩くようにしています。いろいろな発見があります。動植物、まだまだ自然豊かなところですよ。新しいものがたくさんある中に、昔の記憶もよみがえってきます。懐かしい思い出に出会うこともあります。

この度は、清風会のお仲間に入れていただき、ありがとうございます。今後ともよろしくご指導お願いします。



# 生きがい探訪

## 会員からの近況報告

卓球で健康づくり。

仲間づくり。

大島 敏夫

私が卓球に出会ったのは、完全に仕事も終わりの前期高齢者となった六十五歳の時である。健康づくりの一環として、何ができるか考えていたところ、近所の人に誘われ、地元の公民館の卓球クラブに入るようになった。毎週水曜日の夜七時から練習には休まず参加し、卓球の楽しさに触れていった。そして、一年くらい経ち、ある程度技術が身に付いてくると、他の卓球クラブにも興味が湧いてきて、いくつかのクラブに入部した。また、始めて三年目頃から各種大会にも挑戦することになった。秩父市を

じめ、狭山市や飯能市、青梅市の大会にも参加した。そのお陰で卓球仲間も増えていった。優勝賞品として、ユニフォームや玉子、米をもらったこともあった。今はコロナ禍なので、残念ながら大会には参加できないている。一日も早いコロナの収束を願っている。ワクワクン接種が終われば、秋頃から各種大会に参加する予定である。

卓球は、なかなか奥の深いスポーツである。サーブにしても、下回転系、横回転系、上回転系、ナツクルなどがある。レシーブでも、ツッツキ、フリック、カット、ストロップ、チキータなどがある。攻撃でも、ドライブ、スマッシュ、プッシュなどがある。これらを組み合わせ

て戦術を決めていくのである。

現在、週に一度、東京パラリンピックのコーチの方に教わっているが、基礎・基本がいかに大切かを実感している。

私にとって卓球は、健康づくり・仲間づくりにつながり、生きがいの一つとなっている。

これからも健康には十分留意して、八十歳までは現役の選手として、仲間と共にがんばりたい。

プラネタリウム

特集番組の作成

瀧中 崇史

名栗げんきプラザに勤務して九年目。プラネタリウムの投影を中心に仕事をさせていただいています。その中で特集番組を季節ごとに作成しています。最近は小学校低学年の親子連れが多いので楽しくて少し勉強になるような特集を投影して

ます。

いくつか番組を紹介します。「孫悟空の見た宇宙の果て」では、孫悟空が宇宙の果てまで行く途中、お釈迦様が惑星や銀河などを説明する。地球に戻ってきたとき地球はなんて美しい星なんだと孫悟空が話す。

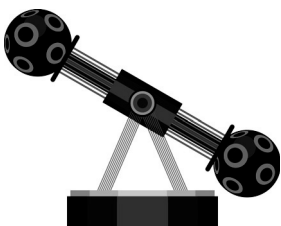
「竜宮城は遠い宇宙にあった」では、浦島太郎が助けた亀型ロケットで遠い宇宙の竜宮城へ行く途中、亀がスイングバイやブラックホール・ワープなど説明する。竜宮城が海の底にある訳は、温暖化で陸がなくなった事を乙姫様が説明する。地球に戻ってきたとき三百年経っていた浦島効果を簡単に説明。

「かぐや姫の結婚」では惑星王子にプロポーズされたかぐや姫がなんとか断る理由で惑星の特徴を伝える。タコのような火星王子を馬鹿にしたの

で怒った火星王子が月に隕石を投げってくる。それが衝突してクレーターができたなどの説明。プロポーズを断ったので怒った天帝がかぐや姫を地球に星流しにする。隕石の衝突を回避した天文学者と結婚するために月に戻るなど。

子ども達が知っている話に天文に関する事や環境問題などを取り入れてパワーポイントで映像が動くようにも工夫して作成しています。

年四回の特集を作成するのは大変ですが、子ども達の楽しかったという声が届きたくて、悩みなながらも楽しんで作成しています。





### 地域とともに 次の世代につなぐ

#### 猪野 知

昨年まで広報委員会でお世話になり、ありがとうございました。退職して六年になり、のんびりした生活にも慣れてきたところです。

毎日の生活パターンは、趣味と農作業が主で、畑に出ていくと昔から変わらぬ景色があり、この変化のない状況を維持し、先祖の残した山や畑等を守る事が大事であると感じています。

農作業では、鹿やイノシシにかなり荒らされて大変な面もあります。作物を沢山作っても食べきれず、かといって出荷するほど上手に作れないので、草刈り機やトラクターで草退治を主にしています。農作業等の道具が増えていきます。

また、造り酒屋だった

こともあり、昔の道具を使って酒造りをしたいとも考えています。趣味としては、ギターやオーディオを楽しんでいます。運動では自転車地域の中を走ったり、トランポリンやゴルフクラブを振ったりしています。冬はスキーで、ゲレンデ暴走族のごとく滑っています。

今、氏子総代と檀家世話人を任されていますが、特に鉄砲祭りを中心に一年が動いています。氏子総代も六年となり、年間二十数回の活動をしています。また、祭りでは、我が家で先祖代々継承する三番叟を奉納します。屋台や歌舞伎のお清めとして一番最初に行うため、かなりの緊張感があります。令和元年に子供が行い、家の伝統が継承できて安心しました。

たいした変化もなく、一年が過ぎる気がしますが、地域に入ればまだ中

堅的な役割で、世代をつなげ、さらに次を考えた計画も考えねばならず、「維持と継承」に今後一層地域の中で努力していこうと思っています。

### ものづくりの奮闘

#### 長谷河 初男

私は以前から木造建築や木材加工に興味・関心が高く、自由な時間を気ままにものづくりに励みたいと思っています。

その「夢」を実現すべく、まずはものづくり大学の講座受講から始めました。一年目は木材の基本的な加工や道具の扱い方について六講座、二年目は木造建築や木材加工に関する講義や実習など、より専門的な知識や技能習得に関する二十六講座を受講しました。大学での二年間は同期の一般市民の方々と現役の学生との交流など、講座以外からも

得るものがたくさんありました。

そして、現在は大工さんの組合が運営する大宮の訓練校二年次の「生徒」として、建築関係の概論、製図、法規、安全衛生、規矩術、実技実習など週一日学んでいます。同期の仲間は現役の若手の大工さんたちですので、建築現場の生のノウハウを学べるものがたくさんあります。

このような学びや訓練が今年で四年目を迎えています。これらの講座受講により、初期の目標であった木材加工に関する確かな知識や技術は、それなりに向上してきています。また、そのことが学ぶ意欲や更なる興味・関心の高まりへ繋がっているように思います。これらの成果を踏まえ、私がこれまでに試作した作品は、脇机（五段引き出し）、ベビーベッド、

カウンタ―用脚長角椅子、室内作業用机、物品収納ボックス、理科実験器具収納箱、飛沫飛散防止衝立、材料収納棚など大小様々です。発注者は身内や知人が殆どであるため、出来映えにもそれなりの評価をいただいています。

私としては出来映えはともかく、皆さんに喜んでいただければ満足ですので、これからも多様なものづくりに挑戦していきたいと思っています。

### ちょっとした楽しみ

#### 邊見 文子

コロナ禍の一年半、行動範囲が縮小されるにつれ「観たい」「〜したい」等の欲求をもたないことが常態化し、いつの間にかテレビや雑誌・新聞等の情報に心動かされなくなつた自分に気づく。

そんな中、時間に余裕ができ、心にもゆとりが

生まれたためか、雑誌や新聞で視界に入っても全く無視し続けてきた「数独」なるものに目が行った。同頁にはほぼクロスワードがあり、こちらは退職後少しは頭を使わねばと、見つけると必ず挑戦してきた。が、「数独」なるものは時間がかかる上に私には到底ゴールできないだろうと思えた。故に「無視」し続けた。

か半分諦め寝てしまった。普段なら見向きもしない私なのだが、なぜか手が伸びた。ああだこうだ四苦八苦するうち、どの位時が過ぎただろう。諦めかけたとき・・・解けたのだ！完璧に！えっ？夫さえ諦めかけたのにこの私にできた？すごい！おわかり頂けるか、この快感！そこで、もしかして頭をよぎったのが「数独」。忍耐力までつけてくれたのか！（現役時代に使いたかつた力）

達成感が味わえる「数独」。少しだけ時間が空いたときにおすすめます。（すでにバッチリ楽しまれている方もいらっしゃるかも）

## ハーモニカ教室で活動して

新井 哲朗

定年退職後、幼稚園で園長として四年間の勤務が終えた。昨年度から、

自由な時間が多くなり、好きなハーモニカを本格的に始めた。東京のハーモニカ教室に入って学ぼうと思ったが、新型コロナウイルスの蔓延により行くのを取りやめた。そこで、秩父中央公民館と尾田蒔公民館の二つのハーモニカ教室に入り活動をしている。

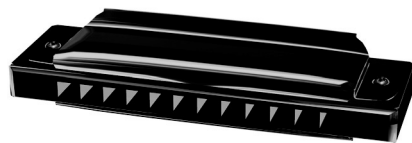
会員の中には八十代の方もいて、昔の話を興味深く聞かせていただいている。練習曲の一つに「秩父郡の歌」がある。この歌は退職校長会「清風会」総会資料の表紙にいつも掲載されているのを思い出した。

その方は、「昔は、学校で秩父郡の歌を歌ったので我々の世代はみんな歌えるよ。」と言っていた。そして「ハーモニカの会で施設慰問に行った時、みんな一緒に歌ってくれたよ。戦後は歌われなくなっただんだよな。」

と話してくれた。

そこで、私は「埼玉県秩父郡誌」（大正十四年五月二十三日秩父郡教育会編纂・発行）やインターネットで「秩父郡の歌」について調べてみたが「秩父郡誌」にはその記載はなく、インターネットにのつていた。それによると制定の経緯については諸説あるが、郡民の教育意識の高揚を図ることを目的として「教育」と「秩父郡歌」の作成に秩父郡教育会が関わっていたことがわかった。秩父郡教育会、現在でいうと教育事務所が担当し学校長の指導の下、各学校で歌唱したのであろう。

私は今、ハーモニカ教室で「秩父郡の歌」を練習している。秩父教育を築いてきた先人、諸先輩の思いを大切に、この歌を演奏したいと思っている。



### 教育現場からの報告

「未来を拓くための確かな学力と  
自立する力を身に付けた児童の育成」  
魅力ある授業づくりとICTの有効活用を探って」

秩父市立西小学校長 飯野 芳伸

#### 一 はじめに

グローバル化や技術革新の進展など、教育を取り巻く社会の状況は、大きく変化している。こうした社会を生き抜くためには、未来を拓くための確かな学力と自立する力を育むことが重要であると考える。特に、魅力ある授業づくりとICTの有効活用に視点を当て、進めてきた研究の一端を報告したい。

#### 二 研究の概要

本校は、令和二年度に県教委から「学力保障スクラム事業」モデル校の指定を受け、研究の二年目を迎えた。

算数を中心に、確かな学力を身に付け、その学力を実生活の中で生かし、自ら考え、判断し、行動

できる自立した児童を育成することを目指して研究を推進してきた。

(一)研究の重点

#### 本校では、発表や考え

合う活動において、学上位層を中心に進めていたり、下位層への個別指導に多くの時間をかけたりにしていた。そのため、真面目に取り組んでいるが理解が不十分だったり、分からない問題を聞けずたりそのままにしてしまったりする中位層の割合が高い状況にあった。

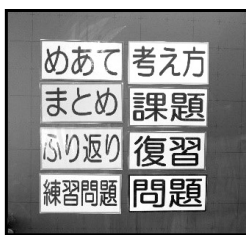
本研究では、習熟度別のクラス分けを中心に、自力解決・学び合いを工夫した授業参観により、「できた」という実感をもたせていく。また、見届けを確実に行うことで、中位層の学力を伸ばしていく。

#### (二)研究組織の取組

研究を推進するために組織した学力向上部とICT推進部の取組の一部を紹介したい。

#### ①学力向上部

児童の学習意欲や学力の向上につなげていくため、全校で授業をスタンダード（標準）化し、学習環境や板書、学習の進め方を統一する。学びのスタイルを確立することにより、学習の仕方を定着させ、主体的に学習する児童を育成する。



授業外では、家庭学習強化週間を年間五回設け、自主学習の質的向上を目指す。さらに、どのような学習をしたらよいか困っている児童のために、工夫の見られる自主学習ノートを廊下に掲示するとともに、図書室に自主学習コーナーを設置し、課題プリントを自由に使えるようにしている。

②ICT推進部  
GIGAスクール構想実施に伴い、タブレットを中心としたICT機器を有効活用しながら、授業改善に努め、わかりやすい授業を展開する。具体的には、⑦授業の中で、児童に考えさせたい学習資料や情報をモニターに送信する。⑧算数の適用問題では、遠隔操作により、つまずきのある児童の個別支援や画像の共有により学び合いの活動を充実させる。⑨各教科の振り返りや感想を児童が

入力し、教師が授業評価に生かす。⑩デジタルテストを実施することにより、問題ごとの正答率を把握し、補習に生かす。



#### 三 成果と課題

授業のスタンダード化とICTの有効活用により、学習意欲が向上し、主体的に学習に向かう児童が多くなった。県学力調査では、学力の伸びが見られた児童は国語で九割、算数で七割という結果になった。今後は、発表や教え合い等の場を充実し、深い学びを実現するための発問や声かけ、授業の展開の仕方を充実させていく。

研究主題の実現を目指し、引き続き、チーム西小として総力を結集し、研究を深めていきたい。

# 生き生きライフ

## 心豊かに お茶のある生活

関田 幹子

職場の先輩に紹介されて茶道の門をくぐりました。入門したての頃は「稽古は休まないこと」「茶道は趣味ではなく修行である」と厳しく指導され、安易な気持ちで入門したことを後悔したものでした。師匠は自分にも厳しい方で、常に知識欲を持って貪欲に勉強してそれを弟子に惜しみなく教えてくれました。

数年前、我が家で茶席抜きを催し、大勢のお客様に來席していただきました。道具を選ば、抹茶や菓子、料理から人の手配など準備することが際限なくあり、パニックになりました。でも、



床の間にはどの軸をかけるか、花は具合よく咲いてくれるか、お菓子をみて喜ぶ声が聞けるかしら、などお客様の反応を想像しながら道具組を考えていく過程がとても楽しい事に気が付きました。高価な道具がなくても、手持ちの道具の取り合わせを工夫し、心を込めて準備をすればお客様にも楽しんでいただけることを学びました。

今はコロナ禍で、家にいることを余儀なくされていますが、お茶のお蔭で退屈することはありません。季節ごとの道具の出し入れ、炭や灰の用意など一日中やる必要があります。飽きたら外に出て茶花の世話をします。汗をかけた後の抹茶の一服は最高に美味です。千利休の「茶は渴を医することに止まる」という茶道の根本精神が実感できます。

## 私の自慢の一枚

守屋 充幸

退職後、友人に誘われて風景写真を撮り始め、二十年程が経過した。始めた頃は、まだフィルム写真が全盛で「フィルム写真が最高、デジタル写真なんか・・・」などと粋がっていたものだが、デジタル化の波には逆らえず、いとも簡単に変節してしまい、今はデジタル写真にどっぷり嵌ってしまった。

撮影した画像をパソコンに取り込み、ソフトを使って明暗や色調など、最小限の画像処理を加えプリンター作品に仕上げる。撮影からプリントまで自分で出来るのがなんとってもデジタル写真の醍醐味である。



「大地讃頌」

さて、左の写真は美の山山頂の展望台から太田田圃に当たった太陽の光線を撮ったものである。このような光芒は「天使のはしご」とか「天使の階段」とか呼ばれており、宮沢賢治は「光のパイプオルガン」と呼んで神秘的な光を賞賛している。偶然出現した光景の余りの神々しさに、身震いしながら夢中でシャッターを切った覚えがある。

この写真を「大地讃頌」というタイトルで秩父美術展に出品し、三度目の特選に選んでいただいた。勿論タイトル「大地讃頌」は大好きな合唱曲から拝借したものである。

## 編集後記

一ヶ月先すら予測できない状況が続いています。福島で点火された聖火は、日本各地を周り、七月九日に都内に入りました。ワクチン接種が希望の綱ですが、ウイルスはどうなっているのか、東京五輪は無事開催できるのか。会報が届けられる頃には、結論が出ていると思います。お目にかかれないう今日、近況を伝える手段としての本会報の役割が一層重要です。会員の皆様のご健勝を祈念すると共に、玉稿をお寄せいただいた方々に感謝し、第七十号をお届けします。

清風会(第七十号)  
発行 令和三年八月一日  
発行者 会長 木村英一  
小鹿野町小鹿野六四〇  
清風会事務局  
印刷所 秩父市黒谷一〇三六  
(有)萩原印刷  
☎〇四九四三四一四二六